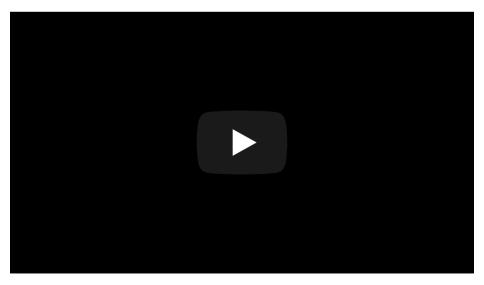
【听译】醉花 四



千切れた云の隙间に 映 波云飘过的空隙之间 掩

ゆる今宵の月は 解けた帯によく似た 淡 い花模様 爱し君の唇が 口ずさむ 手毬呗 あの日の面影はもう 祸 夜最の果て

映出今夜明月 恰似宽解下的腰带上 淡 雅花纹 你可爱的小嘴 轻声哼起 童谣小调 那日容颜已成为 那夜灾 祸最后的结果

根雪の下で芽吹いた意思 の 蕾は何処で咲くのだろ う? 差しのべた手の温もりは 変わることなく

残雪下破土而出的心意 花苞又会在何处绽放呢?

伸出的手 温暖还尚未消 散

失くした物を忘れ去るように うに 过ぎ行く四季の移ろいに 道の端揺らぐ花よ 君は 今何思う

就像要忘却那些失去的事物 四季轮转交替不停 路旁摇曳的花啊 你现在 又在想什么

远く渗む缥色 流々と旅 行く鱼は 「己が运命」と散りても 羽瀬に惑いて 共长天一色的流水 络绎不绝的鱼群 说是为「自己的命运」而 牺牲 却是困入了鱼篓中 叶黒无く脆く砕けた命 (ツキ)の 欠片は何処へ还るだろ う? 天翔けるその煌きは 语 ることなく

飘渺而脆弱的这已经破碎 的牛命 (残月) 碎片该归还干何处呢?

曾经在天空翱翔时的辉煌 也无人能诉说

共に朝まで话した梦を 纸の小舟に浮かべよう 长く続くこの旅路を 静 かに见送って

—同彻夜畅谈的梦想 折成小纸船浮在水面上 这段漫长旅涂 只能静静 日送

君在りし日の あの彩り 你尚在时的 那片光彩啊 上 何时かまた音连れるよう 要待何时才能传来音讯 に ぽつり、ぽつり 纺ぐ音 霊の夜风に乗せて

一点一滴 纺出的音符 乘上夜风

去りゆく物へ 捧ぐ思い 対远去的事物 奉上思念 σ その儚さに止め処なく **睑から落ちる玉は 何故** 杯を染む

这片虚无感无处可安 眼角滑落的点滴 为何浊 了杯中酒

又是一首以《砕月》为曲调填词写的歌呢,算上之前翻译过的《爱き夜道》 和《月见桜》这已经是第三首了,看来我真的很喜欢《砕月》的曲调呢。听过之前这两首的人大概会感觉出来,虽然三首歌有共同的曲调,却有不同的曲风,大多东方同人的音乐都是如此,因为原曲都是神主ZUN的游戏配乐,没有歌词,于是同人创作者根据各自的理解重新演绎成不同的二次创作。某种程度上,这很像自由软件社区呢。

标题「 醉花 」,是个文字游戏,因为 《碎月》 这 首曲调算是《东方萃梦想》的BOSS 伊吹萃香 的主题 曲,标题就是 萃香 这个名字的不同汉字转写。

曲风用词非常古朴,以至于只看到了两个音读汉字词(「意思」和「四季」),别的汉字都是训读,甚至作者给出的训读表记的一些词的汉字写法接近 万叶假名,而非现代更常用的训读汉字,看来作者是想模仿中古时代那段时期的日语风格。 这古风翻译起来也更困难,于是照例,标假名的同时给出字词解释。

い花模様

いと きみ くちびる くち てまり うた 爱 し 君 の 唇 が 口 ずさむ 手毬 呗: <u>手鞠歌</u> ,明治时 期起小孩一边玩手毬一边 唱的童谣。

てまり うた

を 失くした物を忘れ去るように す すぎ行く四季の移ろいに みち はじゅ はな きみ いま なに おも 道の端揺らぐ花よ君は今何思う

とお にじ はなだいろ るる たび 远く渗む缥色流々と旅 ゅ うぉ 行く鱼は

「己が运命」と散りて も羽瀬に惑いて

直译:远去的淡蓝色融入 (天空),匆匆赶路旅行 的鱼。

羽瀬:一种类似鱼篓的竹制捕鱼工具,涨潮时等鱼游入其中,落潮时把鱼困在里面。

叶黒无く脆く砕けた命 叶黒无く:现代训读汉字

写作「^{はかな} く」,飘渺不定的。命:这里命是当て字,读作月。

きまれる。 君在りし日の あの彩 りよ

がっ 何时 かまた 音 连 れるよう に

音 连 れる:现代训读汉字 写作「 访 れる」 ,到访, 造访。倒是原本的写法「 章 连 れる」更能体现 「带 来音讯」的意思。

ぱつり、ぽつり 坊ぐ音 ^{たま ょ かぜ} 。 霊 夜 风 に 乗 せて